

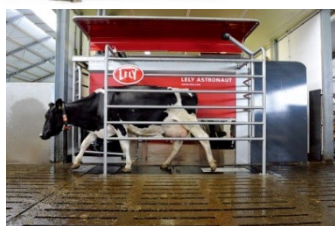
経営体の概要

- ・所在地：三重県伊賀市
- ・経営体名：ヤマギシズム春日農事組合法人
- ・飼養家畜：乳用牛（成牛）470頭、（育成牛）300頭、（F1）90頭
- ・従業員数：30名（令和6年3月現在）
（乳牛管理、肉牛管理、自給飼料生産、堆肥生産、場内清掃 他）

導入技術

- ・搾乳ロボット アストロノートA4（LELY社製（オランダ））
搾乳作業をロボットが行うことで、搾乳作業時間が短縮でき、労働力が軽減されるとともに、関連する一連の飼養管理システム（PMR給与、個体管理等）により、多くの有用なデータが活用でき、質の高い飼養管理を実現し、乳量の増加や疾病の減少等、生産性の向上が期待される技術。

ロボット1基で約60頭/日の搾乳が可能。



搾乳ロボット外観（代理店HP引用）



導入経緯

- ヤマギシズム春日では、需要に応じた生乳量を確保し、経営の安定を図るため増頭が必要であった。
- 搾乳ロボットを導入することで、搾乳に係る労働力を軽減し、人件費を削減するとともに、乳量の増加による収益向上を目的に、畜産クラスター事業を活用して、平成27年度に牛舎の新設と搾乳ロボットを4基導入した。さらに、新たに平成28年度に自己資金で、平成30年度に楽酪事業でそれぞれ2基を導入し、現在、ロボット8基で約400～420頭の搾乳牛に対応している。

取組の特徴・効果

- 搾乳ロボットの導入により、1日約3回の搾乳回数になり、1日2回搾乳の従来のミルクングパーラー方式に比べて労働力の軽減、生乳生産量の増加等の効果が得られている。
 - ・搾乳作業時間の削減（延52.5時間/日→24時間/日）

人員の削減	（実5名/日→3名/日）
作業時間の削減	（10.5時間/日・人→8時間/日・人）
 - ・生乳生産量の増加（29.7kg/日・頭→34kg/日・頭）
 - ・乳房炎罹患頭数の減少（19頭/月→3頭/月）
- 飼養管理体系の変更により、飼料費や施設維持費が若干増加したものの、人件費が削減でき、生乳販売収入が増加することで経営全体の収益向上に繋がった。
- 今後は、導入したロボットの維持管理を心がけ、さらなる経営強化を目指す。